

## 実践事例報告

### グローバルなESD 実践事例と消費者教育

### えひめグローバルネットワーク代表・ 四国 ESDセンター統括

## 竹内 よし子



竹内：今ご紹介いただきました、えひめグローバルネットワーク、また四国 ESD センターの竹内です。よろしくお願いたします。

では、私のほうからは、「グローバルな ESD 実践事例と消費者教育」と題して発表をさせていただきます。

私たちえひめグローバルネットワークという NPO 法人は、「あらゆる人々が人として平和な日々を送ることができる、持続可能な社会を実現すること」というのをビジョンとしています。またミッションとしては、国際協力活動を実践すること、地球市民教育の普及に取り組むこと、ネットワークを構築することとしております。

活動の概要は、大きく国際・環境・教育、3つの柱をネットワークやパートナーシップを構築しながら、さまざまな社会課題の解決・改善に向けて取り組んでいこうと、そういう活動を広げております。

ビジョン ミッション  
Vision Mission

■**ビジョン**・・・えひめグローバルネットワークが  
どんな社会を目指しているか

あらゆる人々が、  
人として平和な日々をおくることができる  
持続可能な社会を実現すること

■**ミッション**・・・えひめグローバルネットワークの仕事・使命、  
何をしているか、何に取り組んでいるか

1. 国際協力活動(平和・人権・環境・防災等)を実践すること
2. 地球市民教育(ESD)の普及に取り組むこと
3. ネットワークを構築すること

活動概要 国際・環境・教育、3つの活動相互のつながりと  
市民主体の社会づくりを目指して！ (1998年発足、2005年法人化)

国際 教育 環境 ネットワーク・パートナーシップで社会課題解決・改善

外務省 NGO 相談員 ⇔ 四国 NGO ネットワーク

- 全国15カ所にある受託団体のひとつ
- 2004年4月に受託し、**現在18年目**
- 4年ごとに四国の国際協力 NGO と ODA 情報を更新

環境省 四国環境パートナーシップオフィス (四国 EPO)

- 全国8カ所にある環境省地方環境 EPO のひとつ
- 2007年1月受託、四国 EPO 開所、**現在15年目**
- 環境省四国事務所と **ローカルSDGs 四国**を始動！

環境省 & 文部科学省 四国 ESD センター

- 全国8EPOの中に開設されたセンターのひとつ
- 2017年7月開設し、**現在5年目**
- 四国各県教育委員会・四国地域 ESD 推進拠点と連携

平和で持続可能な社会づくりに向かい  
市民と共に、政策と共に歩み続ける

©Ehime Global Network

主に外務省、環境省、文部科学省と一緒に活動に取り組んでいます。この中の、実は、ESD というのが、消費者市民教育との出会いとなったきっかけとなっております。

皆さん、ESD というのは聞いたことがあるでしょうか。「Education for Sustainable Development」ということで、日本が国連に提唱して取り組んできたもので、今、ESD はSDGs 達成のために必要な学びです。実は、消費者市民教育が始まったころに、このESDに取り組んでいるというを紹介したところ、消費者庁長官（当時は阿南長官）と、弁護士の島田先生と一緒にパネルディスカッションをさせていただいたことがあります。

そのころから消費者教育ということに興味・関心を持ち、消費者市民教育の部分と私たちが取り組んでいるESDや、地球市民教育とつながっている部分と、思っています。

四国には、こういう16のESD拠点があります。これも実はどんどん増えていってございまして、いろいろな自治体とも協力関係をつくっております。

四国には**16**の地域ESD拠点ががあります！

<b>愛媛県</b> ① 新居浜市教育委員会 ② IKEUCHI ORGANIC株式会社 ③ 株式会社平野 平野薬局 ④ NPO法人 えひめグローバルネットワーク ⑤ 一般社団法人ノヤマカンパニー ⑥ NPO法人 どんぐり王国	<b>香川県</b> ⑦ 高松ユネスコ協会 ⑧ うどんまるごと循環プロジェクト ⑨ 普通寺こどもエコクラブ
<b>高知県</b> ⑩ 株式会社 土佐山田ショッピングセンター ⑪ 室戸ジオパーク推進協議会 ⑫ 株式会社 相愛	<b>徳島県</b> ⑬ 株式会社 ハレルヤ ⑭ 一般社団法人そらの郷 ⑮ パンゲアフィールド ⑯ 株式会社 井上組

四国地方ESD活動支援センター  
Education for Sustainable Development

その中で、四国ESDバーチャル大学というのがございます。今日ご参加の方の中にもこのバーチャル大学に参加して下さった方がいらっしゃるのですが、四国ESDセンターが今年度、新たに取り組みを始めたものとなります。

オンライン開催 参加費無料

# 四国ESDバーチャル大学(ESDVU)開講！

\*ESD:「Education for Sustainable Development」の略

今年度よりスタートした「四国ESDバーチャル大学(ESDVU)」。どこにいても気軽にESDに触れたいという方、オンラインで学びの場を提供しています。「ESD for 2030」を踏まえ、学びから目指すのは「地域循環の推進による社会変容」です。どの回からでもご参加いただけます。ぜひお気軽にご参加ください。

第1回 5月 出してみよう！パワコメ！ ESD国内実施計画案 パワコメコンテスト勉強会 5月1日(木) 15:00~16:30	第5回 9月 四国のESD取組紹介 9月25日(土) 13:00~15:00
第2回 6月 結果どうなった！？ ESD国内実施計画 6月30日(水) 13:00~14:30	第6回 10月 「住」から考えよう！SDGs 健康な暮らしと 地球環境の未来を考える 10月19日(火) 15:00~17:00
第3回 7月 衣類から考えよう！SDGs 7月12日(月) 16:00~17:15	第7回 11月 地域ESD拠点交流会 11月19日(金) 13:00~15:15
第4回 8月 「食」から考えよう！SDGs 8月10日(火) 13:00~14:30	

この中で1回から7回まで実施している中で、特に、第3回、第4回、第6回のところは、消費者教育の「衣・食・住」という切り口から取り組んだものとなります。「衣から考えよう！SDGs」ということで、衣類の

リサイクルをしている香川県にある田代商店、こちらは衣類の現状について学び、私たちが「もったいない」という思いを持って取り組んでいくリユースやリサイクルを考えるという機会を設けました。

## 「衣」から考えよう！SDGs

### 田代商店(香川)

衣類のリサイクルとは

- 衣類の寿命を延ばすことで、二酸化炭素排出量を抑制。  
衣類を二次利用三次利用することで衣類の寿命を延ばすことができます。新たな資源を使わずに、資源を有効活用できる。
- 世界でリユースすることで、健康的な生活を実現。  
開発途上国にも日本向けに作られた質の良い衣類を比較的安価に届けることができる。
- もったいないという人の思いをつなく。  
思い入れのある衣類をただゴミにするのではなく、必要としている人に届ける。

四国地方ESD活動支援センター  
Education for Sustainable Development

また、「食から考えよう！SDGs」ということで、伊予市にある「シゼンタイ」という自然農法を進めている佐伯さんという方は農福連携を進めておられます。この方と南アフリカのロブ先生が登壇してくださいまして、アフリカでも昔はこのように発酵食品をつくって食べていた、今はどうですかということで、過去と現在を結び、そして、これからどうなるんだろう、どのように私たちは、この持続可能な社会をつくっていったらいいのだろうというような議論をしました。

## 「食」から考えよう！SDGs

### シゼンタイ(伊予市)とロブ先生(南アフリカ)

穀物発酵食品(maRewu)

1 昔はどうだったの？  
2 今はどうですか？  
3  
4

どのようにすればいいのでしょうか？  
共に持続可能な社会を目指して

これは現代の私たちにとって、どのような意味を持つのでしょうか。

四国地方ESD活動支援センター  
Education for Sustainable Development

「住」のところは幅が広いので、今回は平野薬局という、今治市にあるSDGsに取り組んでいる薬局に登壇していただきました。長い視点での「住」、住環境、住宅、家電、電気などライフラインのことや、身近な暮らし視点について勉強会を開催しました。

**「住」から考えよう！SDGs** **平野薬局**



長い視点での「住」  
住宅、家電、電気などのライフライン  
長い視点で考えるべきは、単にコストもかかるものだが、長期的にみるとその  
後の200年程度まで持続可能な社会を実現するための投資である。

身近な視点での「暮らし」  
食べ物、日用品、生活習慣など  
日々の行動を省き、変えるべきは、日々の生活習慣である。

SDGs 14 海の豊かさを守ろう

四国地方ESD活動支援センター  
Center for Sustainable Development

このように「衣・食・住」という消費者教育を進めつつも、私たちの団体では世界がどうなっているかということ子どもたちに紹介し、一緒に学んでいっております。

今、世界で起きていること、極度の貧困の状態にある人たちが7億人もいる。先進国でも、子どもたちが3,000万人も貧困であるといわれています。また、学校に通うべき子どもたちが学校に通っていない。この数字も5,700万人になっていますが、コロナ禍においてはもっともひどい状況になっているといわれています。

気温の上昇、地球温暖化によって100万平方キロメートルの氷が溶けて、この影響を受けて私たちの消費行動も変わっていくこととなります。

**今、世界で起きていること**

気温の上昇により、過去30年間で

**100万km<sup>2</sup>の氷が解けた**

(日本の面積の約3倍)  
気候変動の影響とは・・・豪雨・干ばつ・山火事

出典：JICA・SDGs入門

下のスライドは、西日本豪雨災害とモザンビークのサイクロンの写真です。このあと、モザンビークの支援活動をお話ししていきたいと思いますが、洪水や干ばつといった災害があちこちで起きているということを伝えています。

**西日本豪雨災害(2018年7月発生)**



**モザンビーク・サイクロンIDAI(2019年3月発生)**



その影響を受けながら生産部分においても問題が出てくるわけです。世界で生産されている食料の3分の1の量が捨てられています。また、世界人口1パーセントの富裕層が、世界の富の半分以上を保有して、このような格差の社会が生まれてきています。

**今、世界で起きていること**

極度の貧困(1日約210円)で暮らす人たちが

**7億人**

います  
先進国でも3千万人の子どもたちが貧困・・・  
飢餓で苦しむ人は8億人・・・

出典：JICA・SDGs入門

**今、世界で起きていること**

小学校に通うべき年なのに  
学校に通えない子どもたちが

**5,700万人**

います  
毎年600万人が5歳までに命を失っている・・・  
15歳以上で読み書きできない人は7億5千万人  
その内3人に2人が女性

出典：JICA・SDGs入門

**今、世界で起きていること**

毎年世界で生産される食糧の

# 3分の1が捨てられている!

世界人口1%の富裕層が世界の富の半分以上を保持している

出典: JICA・SDGs入門

さて、私たちはどうしようかということで、実は、昨日も小学校5年生と一緒に下の写真を見て、この中に何か食べられるものがあるのではないかと考えました。こんなに捨てているけれども、これでいいんだろうか、パンの耳だけを残している人がいるよ、このニンジンはまだ食べれるのではないかとか、そういうことを考えました。

日本の食品ロスが612万トンあり、世界では食糧援助量が320万トンということで、日本の食品ロスのほうが、量が多いということ、フードロスとフードウェイストのお話などもしました。

その小学校では隣にスーパーがあるので、スーパーでどんな買い物をしたらいいんだろうという話をしてみました。

**日本の「食品ロス」612万トン**

家庭系46% (284万トン)

事業系54% (328万トン)

**世界全体の食料援助量 約320万トン**

皆さんには、この地図を見たことがありますかと、こんな地図があるということで、ハンガーマップを紹介します。みんなマップは分かるけれども、ハンガーが分からない。でも、ハングリーと言うと分かるので、お腹が空いている状態の地図だよ。世界にはこんなに困っている人たちがいる。私たちの食事情には、こういう世界とのつながりがあるということを伝えます。



そして、さまざまな問題を解決していくために、SDGsという世界の約束があるということをお伝えして、持続不可能な社会を持続可能な社会へ変えていこう、そのためにいろいろなことを学んで調べてESD、消費者市民教育ということと一緒に動いていこう、実践に取り込んでいくことが大事だよ、ということを伝えていきます。

連携しながら問題解決や改善を図っていききたいということで、例えばスーパーが近くにある学校だと、スーパーとの連携で消費者教育を進めていくということ子どもたちに提案すると、子どもたちは手を挙げて、「40パーセントオフの食品が売っていたので、そういうのを買いたと思います」というように、ほんとに素直に答えてくれます。

**「持続可能な開発目標(SDGs)」**  
(2016-2030)

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**

**持続不可能な社会を、持続可能な社会へ!**

世界では、地球温暖化、生物多様性の劣化、貧困、格差、人権抑圧、紛争... 日本国内では、少子高齢化、過疎、無縁社会、経済格差、子どもの貧困など... 社会問題が山積み さらに新型コロナウイルス感染症も...

自然が豊かで、産業が元気で、誰もが未来を描ける、誇りと助け合いに支えられ、孫子の世代まで安心して暮らせる社会づくりのために... ESD=持続可能な開発のための教育

**学ぼう・調べよう(ESD・消費者市民教育) × 動こう(実践・取り組み)**

**そして、連携しながら問題解決・改善へ!**

昨日の5年生には、「皆さんは、消費者ですか？」と聞いたら、全員が手を挙げてくれて、みんな消費者であることを理解しています。なので、お父さんやお母さん、お兄ちゃん、お姉ちゃんとも一緒にそういう買い物をするときに気を付けて、ということ伝えていました。

さて、ここから少しグローバルな視点の中でも、特にフェアトレードについてお話ししたいのですが、先ほども、武田さんからご発表いただいた「ひめまる」の取り組みの中で教材の紹介がありました。

小学生や中学生、高校生、その教材の中の1つ、フェアトレードについては私も協力をさせていただきました。

フェアトレードというのは、公正な商取引で、途上国の自立支援、自立を促進するものですよということでお伝えし、フェアトレードというだけではなく、このマークだけにこだわるのではなく、コミュニティトレードや、エシカルトレードもあるよということ伝えていきます。ここではコーヒーのお話でしたが、昨日は子どもたちでしたので、チョコレートのお話もしました。

**フェアトレード** (応援商品もあるよ！)

公正な商取引で途上国の自立を促進



マークのないフェアトレード(コミュニティトレード・エシカルトレード等もあります。)

例えば  
コーヒー栽培の場合...




何が目的？	利益	平和
取引引きは？	企業と農園	NGOと農園
どのように生産？	大量生産・農薬使用	有機栽培
与える影響は？	貧困 環境破壊	適正な人件費 労働者の自立

フェアトレードとは、今、新しい「国際フェアトレード憲章」というのがあり、フェアトレードは、人間と地球のために公正・平等・持続性を達成すべく、貿易取引を変革する運動であると言われていいます。

**フェアトレードとは？**

新「国際フェアトレード憲章」 International Fair Trade Charter  
(2018年9月25日発表)

- フェアトレードは、人間と地球のために、公正・平等・持続性を達成すべく、貿易取引を変革する運動である。
- フェアトレードは、生産や取引において、人と地球を、金銭的利益よりも優先させることを基本とする。
- フェアトレードは、その取引の中心に、利益の最大化よりも、人間的関係性に価値を置く。

つまり、フェアトレードは、市民である生産者と消費者がともに生活者としての立場で「社会的アクター」となり社会をより良くしていく運動に関わり、商品・貿易の取引に人間的関係性を取り戻していく運動だといえる。

言いかえると、これまでの経済のグローバル化による生産者と消費者の分断を、生産者の顔が見えるビジネス＝生産者と消費者が共に幸せを分かち合うビジネスへと変換しているといえる。

フェアトレードは、生産や取引において、人と地球を金銭的利益よりも優先させることを基本とします。フェアトレードは、その取引の中心に利益の最大化よりも、人間的関係性に価値を置くといわれています。

私たちが消費者として責任ある行動を取るために、このフェアトレードという言葉や考え方を学んで、市民である生産者と消費者がともに生活者としての立場で社会的アクターとなり、社会を良くしていく運動にかかわるといって、フェアトレードの商品、貿易の取引に人間的関係性というを取り戻していく運動だということです。

これまでは、経済のグローバル化により生産者と消費者の分断があったのではないのでしょうか。私たちは、生産者の顔が見えるビジネス、生産者も消費者もともに幸せを分かち合うことができるビジネスへと変換していく必要があると思っております。

私たちが考える消費者市民・社会というのは、「消費者が自らの消費行動が将来にわたって内外の社会経済情勢や地球環境に及ぼし得ることを自覚して、公正かつ持続可能な社会を形成するように参画すること」と謳っています。

そのため、地域や地球規模の社会を構成する人として、市民としての自覚や気づきを促すような、本物の学びと行動が必要ではないかと考えています。これが、私が今まで実践してきた ESD でもあり、消費者市民教育でもあります。

**消費者市民社会とは…**

消費者が自らの消費行動が将来にわたって、  
内外の社会経済情勢や  
地球環境に及ぼし得ることを自覚して、  
公正かつ持続可能な社会を  
形成するように参画すること。

**地域・地球規模の「社会」を構成する  
「人＝市民」としての自覚・気づきから  
ホンモノの学びと行動を！**

持続可能な開発のための教育＝ESD: Education for Sustainable Development

そういう思いを持って JICA 四国とともに NGO 等提案型プログラムでは、NGO と企業がもっと接点を持てるように四国フェアトレード商品開発研修というのも行っていました。

ここでは、NGO の方や企業の方が一緒になって、そういう社会をつくっていくための商品開発について研修を行いました。この研修を終えて、世界をつなげる市民の力ということで、このように JICA の『mundi (ム